

鳳来寺山登山道合同調査について

国土地理院中部地方測量部では、愛知県新城市と連携し「鳳来寺山」の登山道調査を行っております。先日、中部地方測量部、新城市、関係ボランティア団体との合同による、第一回調査を行いました。

まだ残暑の残る9月29日（日）、国土地理院中部地方測量部、新城市観光課、新城市を中心に活動している登山愛好家団体「山野ウォーク」、鳳来寺山周辺の観光ガイド等を行っている「鳳来寺山歴史ボランティアガイドの会」の4者で、鳳来寺山合同登山道調査を行いました。

午前9時に石段下の駐車場に集合し、国土地理院から調査ルートの概要説明と、GPS機器の操作説明を行いました。



集合場所で概要説明

説明後は、2つの班に分かれて調査を開始しました。第1班は不動滝周辺の新規路線から稜線を登り、鳳来寺山最高峰の瑠璃山を經由し、奥の院、鳳来寺本堂を巡り、展望の良い馬の背展望台への新規路線を調査し、石段へと下山するルート、第2班は中腹の小富士への新規路線を經由し、奥の院、鳳来寺本堂、東照宮と巡り、こちらも展望のよい鷹打場へ至った後、同じく馬の背を經由して、鳳来寺山自然科学博物館へと下山するルートです（「調査結果（GPSの軌跡）」参照）。国土地理院の職員を除く参加者は、地元の山で小さい時から登り続

けてきた鳳来寺山を、軽々と登っていきました。



調査に使用したハンディ GPS 機器

第1班は新規路線の不動滝周辺の調査を順調に終え、鳳来寺山最高峰の瑠璃山を經由し、奥の院へと進みます。辿り着いた奥の院は、先日の台風により建物の一部が倒壊しており、改めて自然の驚異を思い知ると同時に、こんな困難な場所に院を建てた先人の偉業にただただ感心するばかりです。

さらに第1班は鳳来寺本堂から、馬の背を經由し石段横へと下山しました。



台風で崩壊した奥の院

第2班は真増寺の裏手から、小富士を目指して進みましたが、ものの数分で草が生い茂り、道がハッキリしない場所に辿り着きました。これ以上進むのは困難であると判断し、小富士へのルート of 調査を断念し、1,425ある石段を経由して鳳来寺本堂を目指すことになりました。

鳳来寺は大宝2年(702年)に利修仙人が開山したと伝えられ、徳川家康の生母・於大の方が当山に参籠し、家康を授けられたという伝説があり、徳川家光により東照宮が建てられました。その東照宮を通り抜け、鷹打場へと到着しました。鷹打場は展望がよく、当日も多くの人で賑わっていました。

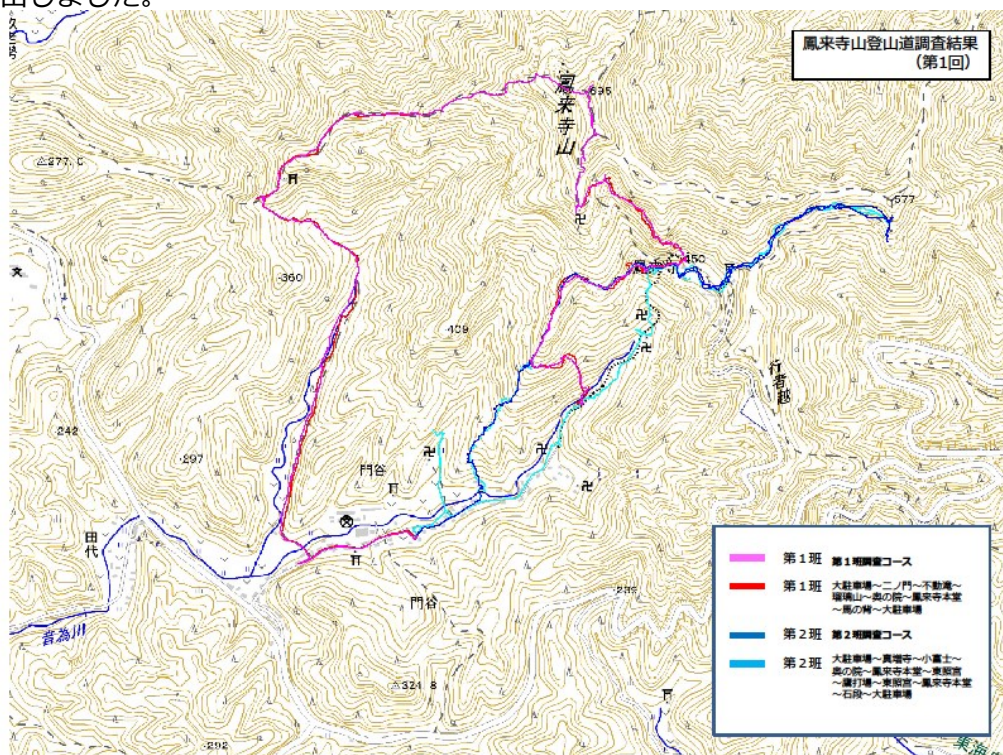
第2班も第1班と同じく馬の背を経由して博物館裏手へのルートを探すのですが、石段横へと続く道の分岐点から先は崩れている箇所もあり、道がハッキリしません。道なき道を駆け下り、なんとか博物館裏へと下山しました。



多くの人で賑わう鷹打場展望台

両班とも15時には下山し、集合地である駐車場で解散となりました。

今回の調査で、予定していた調査箇所の約4割が終了しました。今後は新城市とボランティア団体が主体で実施していく事になります。中部地方測量部では今年中の調査完了を目指して、引き続き新城市と連携して登山道調査を続けていきます。



調査結果 (GPS の軌跡)

(中部地方測量部測量課)